vinetur

11月前半、英国のパブでスピリッツ販売が23.5%減

NielsenIQによると、消費者の慎重な支出姿勢がワインとビールの販売も圧迫。ホスピタリティ業界はクリスマス商戦に期待を寄せている

2026年11月21日（土）



NielsenIQが11月20日に公表した分析によると、11月前半、英国のパブやバーなど店内飲食を提供する施設で酒類の販売が低迷し、なかでもスピリッツの落ち込みが最も大きかった。

NIQによると、消費者の慎重な支出姿勢がホスピタリティ業界の販売を圧迫し、月初の市場は低調なスタートとなった。同社のデータでは、11月7日終了週のスピリッツ販売は前年同期比23.5%減、11月14日終了週は20.9%減だった。

ワインとビールも減少したが、落ち込みはスピリッツより小幅だった。ワイン販売は11月7日終了週に11.2%減、11月14日終了週に6%減。ビール販売は前者の週に6.2%減、後者の週に2.8%減と

なった。

このデータは、消費者が店内で飲食する施設において主要な酒類カテゴリー全般に圧力がかかっていることを示している。一方、報告対象となった2週目には減少率がやや縮小した。スピリッツは両週とも最も低調なカテゴリーで、高価格帯の提供や、ミックスドリンク、ショットへの裁量的な支出が特に厳しい状況にあることがうかがえる。

NIQは11月の出足を低調と評し、業界は年末の祝祭シーズンによる販売回復に期待を寄せていると述べた。季節の集まりが通常、ビール、ワイン、スピリッツの販売を支えるこの時期を前に、パブやバー、レストラン、酒類供給業者は年間でも重要な局面を迎えている。

飲料業界にとって、11月初めの実績は年末商戦の計画にさらなる圧力をもたらす可能性がある。クリスマス前の店内飲食市場の低迷は、各カテゴリーの販売量や在庫水準、販促活動の見通しに影響しうる。とりわけ、両週で最大の落ち込みを記録したスピリッツへの影響が大きい。

このデータは、店内飲食需要の回復が依然として一様ではないことも示している。ビールとワインは、11月14日終了週の前年同期比の減少幅が前週より小さくなったものの、いずれも前年同期の水準を下回った。スピリッツも前週からわずかに改善したが、なお5分の1を超える減少だった。

NIQの分析は、事業者が通常、年末商戦に向けて勢いをつけ始める時期に、英国のホスピタリティ業界で消費者の慎重姿勢が強まっているとの懸念を深める。今後数週間は、パブやバーの売上だけでなく、生産者や流通業者にとっても重要となる。ワイン、ビール、蒸留酒の季節需要に備え、どれだけ在庫を確保するか判断する必要があるためだ。